

奄美群島初LED照射灯 ～海上交通の安全のために～



令和5年3月15日
奄美海上保安部



3月15日、奄美大島笠利湾の海のみちしるべ「竜郷港阿丹埼北東方照射灯」は奄美群島で初めて光源にLED(発光ダイオード)を使った照射灯に生まれ変わりました。

笠利湾は奄美大島の北部に位置し、古くは奄美群島が琉球に従属した時期から琉球との船による交易が盛んで、江戸初期1609年に薩摩藩が琉球を侵略してからは、薩摩藩の役所などが置かれ多くの船が出入り、明治維新で活躍した西郷隆盛が潜居を命じられた時の謫居跡もあります。現在では奄美大島最大の九州電力龍郷火力発電所などが有り、石油などの船による輸送や荒天時の船の避難場所として重要な湾となっています。

照射灯は光源がこれまでのメタルハライドランプからLEDになったことで消費電力が200Wから128Wへ約0.64倍、光源の寿命が6千時間から4万時間へ約8.3倍、メタルハライドランプは瞬間停電でも再点灯に20分以上かかるためUPS(無停電電源)が必要ですがLEDでは不要となり、性能が向上し維持コストも大きく縮減されました。

奄美海上保安部は、外海離島である奄美群島の安全安心に努めます。



夜間の照射状況



昼間の状況

